

**2026 年度令和健康科学大学大学院 健康科学研究科 医療系健康科学専攻
実践看護学コース 筆記試験の
出題意図**

【出題意図】

本試験は、実践看護学コース（NP 養成プログラム）における学修に必要な**看護の基盤**となる知識と、臨床場面においてその知識を活用する**看護実践能力を確認**することを目的として、客観式問題と記述問題で構成しています。

- － **客観式問題**では、看護実践の基盤となる基礎医学・公衆衛生、主な疾患の病態・治療・看護に関する基本的知識を確認することを目的としています。出題にあたっては、**看護師国家試験の既出問題を基盤として、一部に本学独自の問題を加えて構成**しています。
- － **記述問題**では、臨床場面において患者の状態を的確に捉え、根拠に基づいて看護を展開する能力を確認することを目的としています。具体的には、症例に示された症状、身体所見、検査・画像所見等を病態生理と関連づけてアセスメントし、看護問題を明確にしたうえで、看護目標および看護計画を一貫性をもって立案できることを評価しています。

小論文の作問の意図

本学の大学院で養成する人材像は「地域の健康を担う医療人として、将来指導的立場で活躍するために、高度かつ広範な専門的能力、マネジメント能力、実践に活用できる研究能力および専門職連携能力を有し、対象者や地域の健康状態を科学的かつ包括的に評価し、健康課題の解決ができる人材」である。このような人材には地域の様々な健康課題について、データの収集と分析による課題の明確化から解決策を導き出し、各専門職の知識・技術を活用して、具体的に実践する能力が求められる。また、アドミッションポリシーでは専門分野における基礎知識と実践経験、健康支援に対する広い視野、論理的な思考についての能力も求めている。小論文試験では養成する人材像とアドミッションポリシーについて評価する意図がある。

令和8年度の問題はACPについて地域包括ケアの観点から問う問題である。地域包括ケアは住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるように、医療、介護、予防、住まい、生活支援を一体で支える考え方であり、今後、患者、利用者が自分で人生の最期を自己決定できるように、ACPの課題に対応できる医療職が求められている。そこで、提示された文章やデータを分析し、地域包括ケアにおける観点から、ACPを推進していくための課題について明確化（読解力・分析力・知識を問う）し、自分の専門職の観点から実現可能な対策を論じる能力（専門性・論理性・具体性を問う）を評価する。なお、対策は知識をもっているだけでなく、専門職としての考察、実践への適応までを論述できるか（考察力・実践適応・文章力を問う）についても評価する。